

活水中学 かわら版

NO. 190
2009年3月13日(金)

卒業式

3月13日(金)

中学3年間のたくさんの思い出を胸に、31名の生徒が卒業式を迎えました。楽しいこと、悲しいことなどいろいろな経験をしたことでしよう。その経験が卒業生の未来に大きく役立つことでしょう。

思い出



緊張の入学式

卒業生に贈る言葉

「向上一路無終点」

「向上の一路に終点なし」
この言葉は、私が中学生時代、どん底の生活を送っているときに目にした言葉です。それを支えに生きてきました。向上しようとするその1本の道には決して終点はありません。どんなときもくじけず、未来を信じて常に向上し続けて欲しいと思います。

(出光英則)



【ぴかぴかの1年生】



遠足

稲佐山で食べたおにぎりはおいしかったね。



雲仙岳復興記念館

初めての宿泊体験。割りばし鉄砲もつくったね。

【2年生】



エイサーや平和学習、美ら海水族館。内容豊富な修学旅行でした。

球技大会などで団結することの素晴らしさを経験しました。

【3年生】

大阪女学院中学の生徒の案内を通して、平和の大切さを学びました。きつい駅伝にも挑戦し、最後まで走り抜きました。

総合学習でいろいろな体験をしました。車椅子体験では、ふざけて社会福祉協



議会の方から怒られましたが、いろいろな体験を、単なる体験に終わらせることなく、今後の生活に生かして欲しいと思います。授業でもたくさんのことを学びました。人生の中で、その知識がいつかは役に立つ時があります。高校ではそれ以上の知識を蓄えて欲しいと思います。まだまだたくさんの思い出があります。この思い出を大切に。

感謝のことは 伊原育美さん

(抜粋)この活水中学校で過ごした3年間は、忘れることのできない大切な宝物です。期待と不安を胸に入



学。先輩の方から校章をつけてもらったとき、中学生になった自覚を持ちました。稲佐山に登った歓迎遠足。昼休みや放課後に頑張った球技大会。垂れ幕を作った。演技を練習して2回優勝した体育大会。活水祭では、平和学習や福祉・ボランティアについて成果を発表しました。互いに意見を言い合いました。ベストハーモニ賞をいただいたコーラス大会。協力し団結して優勝したダンス発表会。中でも修学旅行と中総体が一番の思い出です。沖縄では長崎と違う地上戦の話聞き、あまりの悲惨さに涙したことを思い出します。

人生にはいくつかの節目がある。特に春にはいろいろな節目がやってくる。中学3年生は卒業し高校生となる。中学時代とはちよつと違ったあらたな**思春期**を迎える。落ち着かない反抗期も治まり、輝かしい**青春**期を迎える準備に入る。他の学校の中学生は高校受験という節目を経験し、ひとまわり成長する。それは人生にとって、ある意味で貴重なことである。活水生はその苦勞と節目を感じることが少ないが、心あらたに進学生として欲しい。素晴らしい**人生の四季**を迎える準備をして欲しい。私もこの春に定年という節目を迎える。**青春**、**朱夏期**、**白秋期**の3年間を活水で過ごさせていただいた。自信も能力もなかった私を、少しでも一人前の人間に近づけようとしていただいた生徒や保護者、教職員の皆様の助けを痛感する。やがて迎える**玄冬期**もその貴重な経験を力に生きていきたい。02年1月29日発行の「かわら版」1号から7年間。月日の過ぎ去る速さを感じるとともに、常に中学生の生き生きとした姿に触れることができたことを感謝する。五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る、そんな順調な「五風十雨」の日々が、今後の活水に続きますようにお祈りします。

五風十雨